

四字經註解前篇

下

特43

269

館籍書會育教本日大			
二册	一三二號	六架	四〇函

自  
函  
一  
架  
一  
號

東  
新  
一  
八

四字經補增註解前篇卷之下

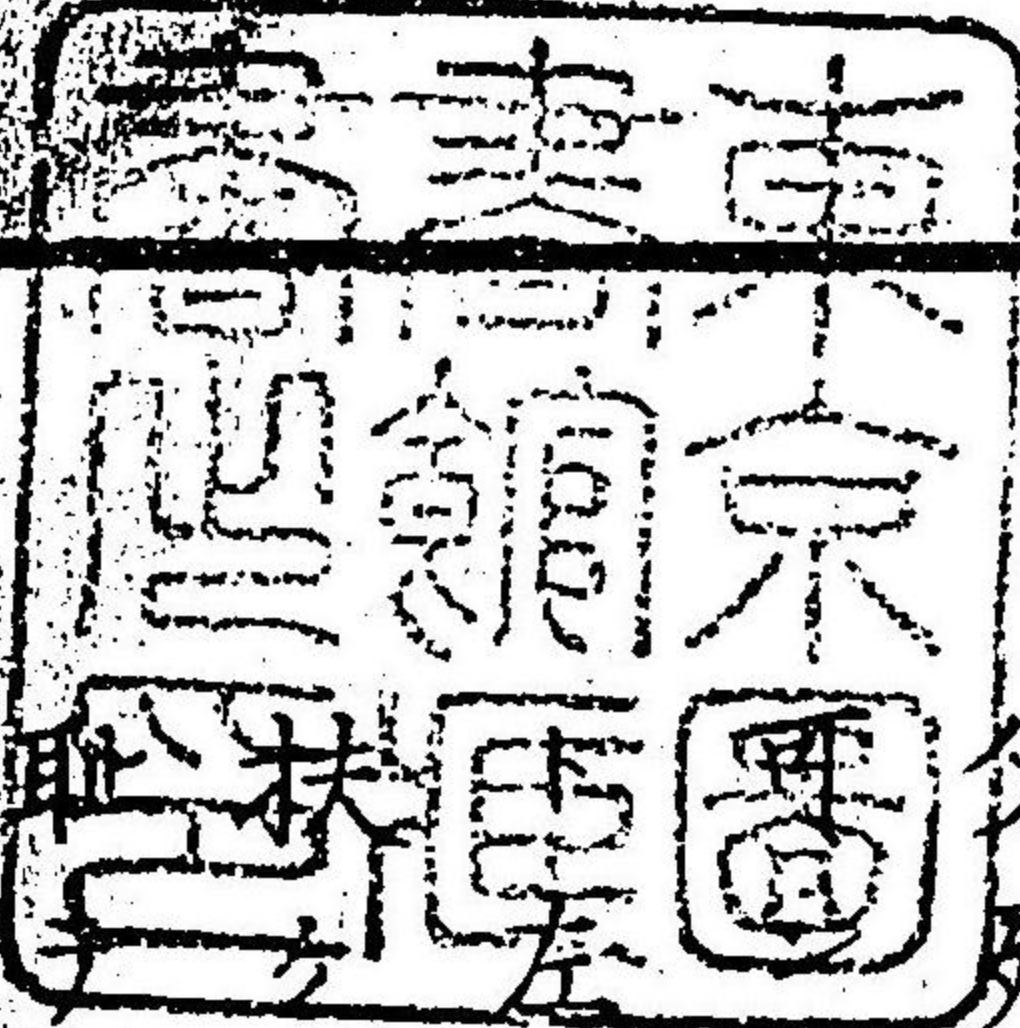
# 公信採薇

公信ハ伯夷ノ子弟叔齊字  
ハ公達孤竹君ノ二子ナリ

周ノ武王殷紂ヲ伐ツ片馬ヲ叩テ諫テ曰ク  
父死シテ葬ラス爰ニ干戈ニ及ブ孝ト謂フ

ヤ臣ヲ以テ君ヲ弑ス仁ト謂フ可シヤ  
右之ヲ斬ントス太公義士ナリト曰テ  
去ラシム既ニシテ周ノ世トナリ二人

周ノ粟ヲ食ハズ首陽山ニ隱レ薇ヲ採



皇朝經世文編 卷之六 一 星

テ食フ後餓テ死ス

# 陶公運甓瓦

陶侃ハ東晋ノ人少シテ家貧シ范逵適マ詣ル侃ガ母

湛氏髮ヲ截リ賣テ酒食ヲ為ル逵侃ヲ薦ム遂ニ名ヲ知ラル侃諸所ノ救賊ヲ撃テ功アリ王敦之ヲ疾ミ廣州ノ刺史ニ遷ス侃ノ州ニ在ルヤ朝ニ百甓ヲ齋外ニ運ヒ暮ニ亦之ヲ齋内ニ運フ人其故ヲ問フ答テ曰ク吾ヒ方サニカヲ中原ニ致サント欲ス故ニ勞ヲ習フノミト

# 孟母斷機

孟軻ノ母ハ仇氏其家墓所ニ近シ軻幼ナル片戲レ墓

間ノ事ヲナス母曰ク此レ吾子ヲ居ク所ニアラズト居ヲ市傍ニ移ス孟子又商賈ノ事ヲナス又去テ學校ノ傍ニ移ル軻戲レニモ禮儀ノ事ヲナス母曰ク是真ニ吾子ヲ居ラシムベシト既ニシテ軻學テ歸ル母學ノ進ム所ヲ問フ孟子ノ曰ク奮ニ同シト母乃ヲ以テ機ヲ断チ責テ曰ク汝ノ學ヲ廢スルハ吾此機ヲ断ツガ如シ軻懼レテ學ヲ勤メ遂

四書集注 卷之二 二 程子集注

二賢人トナレリ

# 朱雲折檻

前漢ノ朱雲字ハ子游勇力アリ成帝ノ時帝ヲ諫メテ

安昌侯張禹ヲ斬ント云フ帝其上ヲ訕ルヲ怒ル近臣雲ヲ階下ニ下ス雲殿檻ニ攀テ檻折ル辛慶忌為ニ諫メ争フ帝意竟ニ解ク後檻ヲ修メントスルニ帝其終ニシテ之ヲ輯メ以テ直臣ヲ旌ハセト云

# 禽息擊車

禽息ハ秦ノ大夫穆公ニ仕テ百里奚ヲ薦ム公納レズ

因テ頭ヲ以テ車ヲ擊チ腦ヲ爛ラシ諫メテ曰ク臣生キテ國ニ補フ所ナシ首ヲ碎テ死スルニ如カスト穆公感語シ百里奚ヲ用テ相ト為シ而シテ天下ニ霸タリ

# 時苗留犢

後漢ノ時苗字ハ徳曹潔白ニシテ惡ヲ疾ム建安中壽

春ノ令トナリ任ニ赴クニ竹編車ニ乘リ牝牛一足ト夜衣ヲ納ルノ布囊トアルノミ而シテ牛一犢子ノヲ生ム後此ヲ去ル時其犢ヲ留テ主簿官ニ謂テ曰ク我来ル時本此犢

ナシ犢ハ是レ爰ニ生ル即チ淮南ノモノナ  
リト時人皆以テ貪吏ヲ激スト為ス是ニ由  
テ名天下ニ聞ヘ後中郎將ト為ル

# 羊續懸魚

後漢ノ羊續字ハ興祖南陽  
ノ太守ト為ル儉約廉直能

ク其民ヲ治ム府丞嘗テ生魚ヲ獻ス續受テ  
之ヲ庭ニ懸ク後復々之ヲ進ム續乃チ前ニ  
懸ル所ノモノヲ出レテ其意ヲ杜グ

# 董昭救蟻

齊諧記ニ曰ク當陽ノ董昭  
之嘗テ舩ニ乘リ錢塘ヲ過

ク江ノ中央一蟻蘆葉ノ泛ヘルニ取ツキ頭  
ヲ回ラシ甚タ惶遽セルヲ見此レ死ヲ畏ル  
ルナリ憐之之レヲ救ハントス舩中ノ人罵  
リテ云此レ毒螫ナリ活スベカラズト昭之  
竟ニ之ヲ助ク中夜夢ニ一人烏衣シテ百許  
人ヲ從ヘ来リ謝テ曰ク僕慎マズレテ江ニ  
墮ツ君ノ濟ヒヲ辱ス僕ハ是レ蟲王ナリ君  
若シ急難アラバ當サニ告ラルベシト後昭  
之事ニ遇フテ獄ニ繋ガル群蟻来リテ獄ニ  
穴ス昭之是ニ因テ遂ニ免ルヲ得タリ

# 毛寶放龜

晋ノ毛寶字ハ碩真征虜將  
 軍豫州ノ刺史ニ進ム西陽  
 ノ大守樊峻ト邾城ヲ守ル石虎兵ヲ將テ之  
 ヲ攻ム城陷リ宝等圍ヲ衝テ出テ江ニ赴キ  
 死スルモノ六千人宝モ亦溺死ス初メ宝ノ  
 武昌ニ在ル時部下ノ軍人市ニ往テ一ツノ  
 白龜四五寸ナルヲ買テ之ヲ養フ龜稍大ト  
 ニナル之ヲ江中ニ放ツ此敗レニ初メ龜ヲ  
 養フ者鎧ヲ被リ刀ヲ持チ自ラ水中ニ投ス  
 一ツノ石上ニ墮シト覺ルガ如シ之ヲ視レ

# 蔡倫造紙

ハ乃チ先ニ養フ所ノ白龜長サ五六尺送テ  
 東岸ニ至リ遂ニ免ルキヲ得タリト  
 後漢ノ宦者蔡倫字ハ敬仲  
 和帝ノ時中常侍ニ轉シ尚  
 方ノ令ヲ加ヘラレ秘劔及ヒ諸器械ヲ監作  
 ス精工堅密ナラサルナク後世ノ法ト為ス  
 ニ足レリ古ヨリ書契多ク編ムニ竹簡ヲ以  
 テス其縑帛ヲ用ルモノ之ヲ謂テ紙トナス  
 縑ハ貴シテ簡ハ重シ并ニ人ニ便ナラズ倫  
 造意ニ樹膚麻頭及ヒ敝布魚網ヲ用テ紙ヲ

為ル是ヨリ遵用セガルナレ故ニ天下之ヲ  
蔡侯紙ト称セリ

# 劉向校書

劉向字ハ子政前漢ノ人護  
左都水使者光祿大夫ニ至

ル博學敏達帝經書ヲ校セシム向天祿閣ニ  
於テ盡ク諸經書ヲ校ズ太乙老人青籙ヲ以  
テ火ヲ燃シテ之ヲ照スト云而テ向ノ著ス  
所新序說苑列仙傳列女傳等枚擧スルニ勝  
ヘス

# 楚英信佛

楚王名ハ英漢ノ光武帝ノ  
第六子ナリ佛教ヲ信シテ

國事ニ怠ル永平八年詔シテ天下ノ死罪ノ  
者ニ絹ヲ入テ贖ハシム楚王黃白絹三十匹  
ヲ入レンヲ請フ詔報シテ曰ク王黃老ノ微  
言ノ好ミ浮屠ノ法教ヲ尚ブ潔齊三月ヲ為  
スモ何ノ嫌疑有テ其罪ヲ贖フ事ヲ用ンヤ  
縑ヲ還シ以テ伊蒲塞ノ饌ヲ助ケヨト伊蒲  
塞ハ優婆塞ナリ十三年楚王不軌ヲ謀リ廢  
セラレテ丹陽ニ徙リ湯沐邑五百戸ヲ食ス

明年自殺ス

# 秦政坑儒

秦ノ始皇姓ハ嬴名ハ政六國ヲ滅シ天下ヲ一ニシ始

テ自ラ皇帝ト称ス丞相李斯カ言ヲ用ヒテ書ヲ燒キ儒生ヲ坑ニス其言ニ曰ク今諸生今ヲ師トセス古ヲ學ンテ當世ヲ非リ百姓ヲ惑乱ス天下詩書百家ノ語ヲ藏ルモノハ皆收テ之ヲ燒キ詩書ヲ偶語スルモノハ棄市シ古ヲ以テ今ヲ非ルモノハ族滅ゼン只醫藥ト筮種樹ノ書ヲ存ス儒生ノ非謗スル

ム  
モノ四百六十餘人皆之ヲ生ナガラ坑ニ埋ム

# 微生不直

論語ニ曰ク誰カ微生高ヲ直ト謂フ或人酢ヲ乞フ微

生其隣ニ乞フテ之ヲ與ヘリト我ニ無ケレハ無シト言フヲ直トス而モ其無キヲ言ハスシテ私ニ隣ニ乞ヒ求メ我ニ在ル如ニシテ其人ニ與フル不直ト為ス所以ナリ小事斯ノ如シ大事亦知ル可キナリ



# 顔子非愚

顔回字ハ子淵孔子ノ弟子  
論語ニ曰ク吾回ト言フ終

日違ハス愚ノ如シ退キ其私ヲ省カクク亦以テ  
發スルニ足ル回也愚ナラス又曰ク回也一  
ヲ聞テ十ヲ知ル又曰ク賢ナル哉回也陋巷  
ニ居リ一簞食一瓢飲人其憂ニ堪ヘス回ヤ  
其樂ヲ更マシメス云々

# 蘧秦刺股

蘧秦ハ戰國ノ時張儀ト共  
ニ鬼谷先生ヲ師トス曾テ  
學問スルニ錐チヲ股モニ刺シ以テ睡魔ヲ除ク

其勉強都テ此ノ如シ秦辯才アリ六國ニ説  
遊シテ兼相トナル初メ出游シテ困窮シ家  
ニ歸ル妻モ嫂シヨウモ其窮困ヲ侮ツテ礼セズ後  
六國ノ相印ヲ帶テ歸ル昆弟妻嫂俯伏シテ  
之ヲ侍ツ秦笑テ曰何ゾ前ニ倨コウテ後ニ恭シ  
キゾ嫂ノ曰ク子ノ位高ク金多キ故ナリト  
秦歎シテ富貴ナレハ他人モ合シ貧賤ナレ  
ハ親戚離ルノ語ヲ為ス

# 李勣焚髮須

唐ノ李勣字ハ茂功太宗ニ  
事ヘ賢臣房玄齡魏徵等ト

並ヒ称セラレ英國公ニ封セラル勳ノ姉病  
 二臥ス勳姉ノ為ニ自ラ藥ヲ煎シ粥ヲ煮ル  
 火飛テ勳ノ鬚ヲ燒ク姉曰ク公位貴ク官高  
 シ亦婢奴ノ在ルアリ何ソ自ラ苦シム此ノ  
 如キ勳曰ク吾年老ヒ姉モ亦老タリ今ニシ  
 テ事ヘサレハ後イカ程カ事ルコトヲ得ン  
 ト

# 介誠狂直

宋ノ石介字ハ守道徂徠先  
 生ト號ス兗州ノ人進士ニ  
 擧ラレ國子監直講トナル性狂直阿ラズ常

ニ仁宗ノ前ニ於テ大臣ヲ褒貶シ邪正ヲ分  
 別ス

# 端不糊塗

呂端ハ宋ノ太宗ノ相ト為  
 ル人々謂フ呂相ノ事ヲ作  
 ス糊塗スト太宗曰ク端小事ニ糊塗ナルモ  
 大事ニハ糊塗ナラスト糊塗トハ分曉ナラ  
 サルヲ云ナリ

# 関西孔子

楊震少シテ學ヲ好ミ經ニ  
 明カナリ博覽窮究セザル  
 ナレ諸儒之カ為ニ語ヲ為テ云関西ノ孔子

楊伯起ト伯起ハ震ノ字ナリ年五十二ニシテ  
始テ州郡ニ仕ヘ安帝ノ時太尉ト為ル関西  
ハ函谷関ノ西ナリ

# 江左夷吾

晋ノ王導字ハ茂弘光祿大  
夫王覽ノ孫少シテ風鑒ア  
リ識量清遠元帝琅邪王タリシ時ヨリ導ト  
素ト親ミ善シ導天下己ニ乱ルヲ知リ遂  
ニ心ヲ傾テ推奉ス帝モ亦之ヲ器重ス帝安  
東將軍トナリ王導ヲ以テ謀主トナシ事ゴ  
トニ咨フ桓彝乱ヲ避テ江ヲ過キ層ガ元帝

# 耿恭拜井

微弱ナルヲ見テ之ヲ憂フ既ニシテ導ヲ見  
退テ周顛ニ謂テ曰ク江左ニ管夷吾アリ夷  
ハ管仲ノ名令江左ニ管仲アル如シト導元帝明帝  
成帝三世ヲ輔佐シ王敦桓温ノ乱ヲ除ク  
後漢ノ耿恭字ハ伯宗戊己  
校尉トナリ金蒲城ニ屯シ  
匈奴ト戰フ疏勒城ノ傍ニ澗水アリ固守ス  
ヘキヲ以テ兵ヲ引キ之ニ據ル匈奴復タ恭  
ヲ攻ム恭先登シテ数千人ヲ募リ直ニ之ニ  
馳ス胡騎散走ス然レトモ遂ニ胡ノ為ニ澗

水ノ源ヲ絶タル恭井ヲ城中ニ堀ル既ニ十  
 五丈ニ至テ水ナシ兵士渴ニ苦ミ馬糞汁ヲ  
 竿リテ飲ム恭仰キ歎シテ曰聞ク昔貳師將  
 軍佩刀ヲ拔テ山ヲ刺シ飛泉涌出ス豈今漢  
 ノ神徳窮マルアラシヤト乃チ衣ヲ整ヘ井  
 ニ向テ拜禱ス頃クアリテ水泉奔出ス

# 范蠡歸湖

范蠡ハ越王勾踐ノ臣越王  
 初メ會誓ニ止メラレ國ヲ  
 以テ呉ニ降ル范蠡身ヲ苦シメ力ヲ竭シテ  
 深ク勾踐ト謀ルコト二十餘年竟ニ呉ヲ滅

シ以テ耻ヲ雪ク既ニシテ謂ラク大名ノ下  
 久ク居リ難シ勾踐ハ患ヲ同フスヘク與ニ  
 安ニ居リ難シト財宝ヲ携ヘ舟ヲ湖ニ浮ベ  
 齊ニ行キ姓名ヲ變シ自ラ鴟夷子皮ト云フ  
 齊人其賢ヲ聞キ以テ相ト為ス蠡歎シテ曰  
 ク家ニ居テ千金ヲ致シ官ニ居テ卿相ニ至  
 ル此布衣ノ極ナリト乃チ相ノ印ヲ歸シ去  
 テ陶ニ止リ富ヲ致ス自ラ陶朱公ト云魯人  
 猗頓蠡ニ就テ富ヲ致スノ術ヲ問ヒ遂ニ其  
 富ヲ同フスルニ至ル因テ天下ノ富ヲ言モ

ノ陶朱猗頓ヲ称セリ

# 伍員覆楚

伍員字ハ子胥楚人父伍奢  
平王ヲ諫メテ誅セラル員

去テ吳ニ奔ル吳王之ヲ用ヒテ越ヲ亡ス員  
又吳ノ兵ヲ以テ楚ヲ攻メ大ニ之ヲ敗リ父  
ノ讎ヲ報フ後吳王夫差佞人ノ言ヲ信シテ  
員ノ諫メヲ聞カズ終ニ刀ヲ與ヘテ自殺セ  
シ員死スル時曰ク我眼ヲ抉テ東門ニ掛  
ケヨ當ニ越王ノ来テ吳ヲ滅スヲ觀ルヘシ  
ト吳果シテ其言ノ如シ

# 勾踐滅吳

越王勾踐吳ト戦ヒ夫椒ニ  
敗ラレ會稽山ニ棲ミ自ラ

臣ト称シテ吳ニ事フ時ニ吳王夫差伍子胥  
ヲ殺シ小人大宰伯嚭ヲ用ユ嚭越ノ賂ヲ受  
ケ夫差ニ説キ勾踐ヲ赦ス勾踐國ニ反リ膽  
ヲ仰キ生聚教訓スル事二十年ニシテ兵ヲ  
起シ遂ニ吳ヲ滅ホス

# 莊周夢蝶

莊周ハ周ノ末梁ノ惠王ト  
同時ノ人其學フ所老子ニ

本ツキ寓言ヲ著ス或時夢ニ自ラ蝶トナリ

テ花園ノ中ヲ飛翔ルニ身自ラ在周タル  
ヲ知ラス夢覺テ之ヲ思フニ蝶トナリシ時  
ノ心ヲ知ラス是其物變化スレハ前身ノ事  
ヲ知ラサルヲ云ナリ

# 張翰思鱸

晋朝ノ人張翰字ハ季鷹吳  
國ノ人ナリ齊王罔辟テ大  
司馬東曹ノ掾ト為ス翰一日秋ニ感シ嘗テ  
吳ニ居リ常ニ食フ所ノ蓴ノ羹鱸魚ノ膾ヲ  
思ヒ出シテ曰ク人生志適スルヲ得ヲ貴フ  
何ヲ能ク數千里ニ羈官シテ名爵ヲ要メシ

ヤト遂ニ官ヲ辞シテ國ニ歸ル

# 善謳王豹

王豹ハ古ノ衛人或ハ云齊  
人謳歌ニ妙ナリ淳于髡其

能ク長声ニシテ善ク謳フヲ稱ス淇水ノ上  
ニ居テ常ニ謳ヘハ河西ノ人皆豹ニテラツ  
テ謳ヒシトゾ孟子ニ見ユ

# 直筆董狐

董狐ハ晋ノ史官事ヲ記ス  
ルニ隱サス飾ラス其實ヲ

直書ス晋ノ大夫趙穿其君靈公ヲ弑ス趙盾  
正卿ト為リ亡テ境ヲ越ヘス入テ賊ヲ討セ

ス董狐筆シテ趙盾其君ヲ弒スト書ス仲尼  
曰ク董狐ハ古ノ良史也法ヲ書シテ隱サズ  
ト

# 文公伯晉

晉ノ文公名ハ重耳初メ父  
獻公驪姫ヲ寵シ其言ヲ聞

テ太子申生ヲ殺シ重耳ヲモ殺サントス重  
耳奔テ諸國ニ流寓シ艱難辛苦ヲ經ル十九  
年竟ニ國ニ歸リ立テ君ト為ル大ニ諸侯ヲ  
會シ周室ヲ輔ケ天下ニ霸タリ卒シテ文公  
ト謚ス

# 小白興齊

小白ハ齊ノ桓公ノ名襄公  
無道ニシテ弟、無知ニ弒セ

ラル小白出テ莒ニ在リ齊人迎テ國都ニ入  
リ立テ以テ君ト為ス管仲鮑叔ノ徒ヲ用ヒ  
テ九タビ諸侯ヲ會合シテ盟約ヲ締ビ天下  
ヲ匡シテ諸侯ニ覇トナリカヲ尊攘ニ尽ス  
謚シテ桓公ト云

# 武王歸馬

周ノ武王名ハ癸文王ノ子  
ナリ殷ノ紂王無道ニシテ

天下乱レ人民困苦ス武王諸侯ノ軍ヲ帥イ

テ紂王ヲ滅シ天下ヲ治ム已ニシテ予ハ  
ニ刀ハ鞘ニ收メ牛ヲ桃林ノ野ニ放チ馬ヲ  
華山ノ陽ニ歸シ天下ニ復タ兵戈ヲ用ヒザ  
ルヲ示セリ

# 裴度還犀

裴度字ハ中立唐ノ憲宗ノ  
時ノ人官節度使タリ尋テ  
相トナル穆宗敬宗文宗ニ歷事シ威望遠ク  
四夷ニ達ス晋國公ニ封セラル初メ度香山  
寺ニ遊フニ先ニ一婦人匏袂ヲ傍ニ置キ祈  
祝スルコト久シテ取ラスシテ去レリ度至

テ之ヲ見ル其遺忘ヒルヲ知テ追トモ及ハ  
ス明早寺ニ往テ之ヲ候フニ婦人果シテ至  
ル度故ヲ問フ婦人曰吾父罪無クシテ拘ハ  
レタリ昨日人ヨリ玉帶一擲帶ニテ假得是  
ヲ以テ當路ノ官人ニ賂ヒレテ父ノ難ヲ免  
レント思ヒレニ不幸ニシテ此所ニテ失フ  
タリト度遂ニ其帶ヲ還ス婦人拜泣シテ其  
一ヲ留メント請フ度受ケスシテ去ル

# 成湯禱雨

殷王成湯姓ハ子名ハ履其  
先ヲ契ト云契ハ帝嚳ノ子



ナリ成湯夏ノ政乱レ民苦ムヲ觀テ屢桀王  
 ヲ諫レ氏聽カス遂ニ桀王ヲ鳴條ニ放ツテ  
 天子トナル已ニシテ天下大ニ旱スルヲ七  
 年太史占テ曰ク人ヲ以テ生贄ニシテ禱ラ  
 ハ可也ト湯王曰ク吾請フ所ノモノハ民ノ  
 為ナリ若シ人ヲ以テ禱ンニハ吾請フ自ラ  
 當ント齋戒シテ爪ヲ剪リ髮ヲ断チ身犧牲  
 ト為テ桑林ノ埜ニ禱ル自ラ責テ曰政節ナ  
 ラサルカ民職ヲ失ヘルカ官室崇キカ女謁  
 威ノルカ苞苴行ルカ諛夫昌ナルカト言未

夕畢ラサルニ兩大ニ降ル

# 寶儼占奎

寶儼ハ五代後周世宗ノ時  
 ノ人推歩ヲ善ス頭徳中盧

多遜揚徽之ト同ク諫官ニ在リ二人ニ謂テ  
 曰丁卯ノ年五星奎ニ聚ル可シ奎ハ文明ヲ  
 主ドル是ヨリ天下太平ナラン公等之ヲ見  
 ル可シ老父ハ興ラスト宋ノ太祖乾徳五年  
 五星連珠ノ如ク奎ニ聚リ果シテ其言ノ如  
 シ奎星ハ魯ノ分野徐州白羊ノ域キニ當レ  
 リ

# 趙苞棄母

後漢ノ趙苞、遼西ノ太守ニ  
 遷リ使ヲ遣ハシ母及ビ妻  
 子ヲ迎フ道柳城ヲ經ルル  
 賊塞ニ入テ寇スルニ值フ  
 賊ト對陣ス賊母ヲ出シテ  
 示ス苞悲シ彌バ母逸カニ  
 謂テ曰ク人各命アリ何ソ  
 相顧ミ以テ忠義ヲ虧カシ  
 昔王陵ノ母劍ニ伏テ其子  
 ノ志ヲ固ス汝其レ之ヲ勉メ  
 ヲ苞即時ニ進ミ戰テ悉ク  
 賊軍ヲ摧キ破ル苞母妻ヲ  
 尋ヌルニ皆賊ノ為ニ害セ  
 ラル苞葬ノト畢

# 吳起殺妻

テ血ヲ歐テ死ス

吳起ハ衛人初メ魯ニ事フ  
 魯起ヲシテ齊ヲ擊タシメ

シトスルニ起ノ妻ハ齊國ノ女ナリ魯之ヲ  
 疑フ起妻ヲ殺シテ以テ大將タランヲ求メ  
 大ニ齊ノ師ヲ破ル既ニシテ或人其君ニ起  
 ハ殘忍薄行ノ人ナリト告ク起罪ヲ得ンヲ  
 恐レ去テ魏ニ歸ス文侯又以テ將ト為シ秦  
 ノ五城ヲ拔ク起士卒ト衣食ヲ同フス卒疽  
 ヲ病ムモノアリ起其膿ヲ吮フ卒ノ母聞テ

哭テ曰ク往年吳公其父ヲ叱フ踵ヲ旋サズ  
シテ軍ニ死ス今又其子ヲ叱フ吾其死所ヲ  
知ラスト或ハ云起本曾參ニ事フ母死スル  
時其喪ニ奔ラス曾子之ヲ絶ツト

# 淵明賞菊

晋ノ陶潛字ハ元亮或ハ云  
名ハ元亮字ハ淵明ト大司

馬侃ノ曾孫博學能文ヲ属シ性淡泊五柳先  
生ト自称レ其傳ヲ著ス時人之ヲ實録ト云  
彭澤ノ令トナリ後印綬ヲ解テ縣ヲ去リ歸  
去来ノ賦ヲ作ル家ニ歸リ酒ヲ飲ミ詩ヲ賦

シ以テ樂ム九月九日酒ナシ籬邊ノ叢中ニ  
出テ菊花ヲ摘ミ把テ坐ス太守王弘酒ヲ持  
来ル俱ニ飲宴シ醉テ歸ル時ニ大守白衣ヲ  
被タリ太守淵明ニ遇ハントスルニ常ニ遇  
フ能ハス因テ白衣ヲ著テ常人ノ扮ニテ来  
レリ

# 和靖觀梅

宋ノ林逋字ハ君復孤山ニ  
隱居シ微辟アレ氏就カズ

居ヲ繞ラスニ梅樹ヲ以テス吟詠自適湖上  
ヲ徜徉シ或ハ旦ニ達シテ返ラス梅ヲ賞シ

鶴ヲ愛ス二十年ノ間足城市ヲ踏マス仁宗  
之ニ和靖先生ノ蹄ヲ贈ル

# 禹鈞五桂

寶禹鈞ハ五代ノ時ノ人五

子アリ儀儼、侃、僖、皆登第

ス馮道詩ヲ贈テ曰ク靈椿一樹老、丹桂五枝

芳、人皆稱シテ燕山ノ五桂ト為ス儀ハ尚書

儼ハ侍郎、侃ハ起居郎、侃ハ參政、僖ハ補闕、

官トナル始禹鈞三十二ニシテ子ナシ或夜祖

先ヲ夢ミル曰ク汝壽ナク嗣ナシ令ヨリカ

メテ陰徳ヲ行ヘト禹此ヨリ力行勤勉卒ニ

五子ヲ得タリ

# 王祐三槐

宋ノ王祐太祖ノ昔ニ忤<sup>チカ</sup>ヒ

華州ニ謫セラル親友都門

外ニ送リ祐ニ謂テ曰ク意<sup>チカ</sup>フニ公ハ顯貴ノ

官トナラン祐笑テ曰ク祐做<sup>チカ</sup>ラス兒子二郎

必ラス做<sup>チカ</sup>ラント三槐ヲ庭ニ植テ曰ク吾後

世必ス三公トナルセノアラント真宗ノ時

ニ至テ其子且果シテ相トナル三公ノ堂前

ニ槐ヲ植ユ故ニ三公ヲ三槐ト稱ス

朱熹心學

宋ノ朱熹字ハ仲晦、晦菴ト号ス。徽國文公ト謚ス。學ヲ

李侗延平先生ニ受ケ孔子ノ道ヲ擴メ性理ノ學ニ長ス。世人ノ知ルトコロナリ。

蘇軾奇才

蘇軾字ハ子瞻、蜀人ナリ。東坡ト号ス。宋ノ神宗、哲宗ノ

時ノ人父名ハ洵、字ハ明允、老泉ト号ス。弟名ハ轍、字ハ子由、穎濱ト号ス。老泉、東坡、文章世ニ冠タリ。軾、書畫文學並ニ絶妙ヲ得タリ。其奇才天下之ヲ称ス。

醇儒董子

董仲舒、前漢孝景ノ時博士トナリ。惟ヲ下シ、講誦ス。進

退容止礼ニ非ル莫ク、醇粹ノ儒宗タリ。學士皆之ヲ師トシ、尊フ。武帝ノ時對策三章アリ。因テ江都王ノ相トナル。其冊孔氏ヲ推明シ、百家ヲ抑黜シ、學官ヲ立ツ。州郡茂才、孝廉ヲ舉ル。仲舒ヨリ始ルト云フ。漢學問ノ関ケシハ仲舒ノ功ナリ。

復聖顏回

顏回孔子ヲ師トシ、三十ナラサルニ頭髮白シ、三十二

歳ニシテ卒ス孔廟ノ四配ノ第一ナリ復聖  
 トハ徳行闕ル所ナク學問ノ功ニ因テ聖人  
 ノ如ク本然ノ性ニ復スルヲ云ナリ明ノ世  
 宗嘉靖九年大學士張孚敬等ノ議ヲ用ヒテ  
 祀典ヲ釐正シ塑像ヲ撤去シ大成至聖文宣  
 王ヲ改メテ至聖先師孔子ノ神位トナシ四  
 配ヲ復聖顔子宗聖曾子述聖子思亞聖孟子  
 神位トナス

# 孔門十哲

孔子陳蔡ニ厄ス弟子従ノ  
 者十人之ヲ十哲ト云フ顔

回字ハ子淵、閔損字ハ子騫、冉耕字ハ伯牛、冉  
 雍字ハ仲弓、宰予字ハ子我、端木賜字ハ子貢、  
 冉求字ハ子有、仲由字ハ子路、言偃字ハ子游、  
 卜商字ハ子夏、

# 殷室三仁

殷ノ紂王無道ニシテ政ヲ  
 乱ル紂ノ諸父微子諫ノ聽

カレザルヲ知テ之ヲ去リ箕子ハ洋リ狂シ  
 テ之ガ奴トナリ王子比干強ク諫ム紂怒テ  
 之ヲ殺ス孔子曰ク殷ニ三仁アリ言ハ行フ  
 所各異ナリト虽モ皆其仁ヲ為スニ至テ同

キヲ称スルナリ

# 太公釣渭

太公姓ハ姜名ハ尚、呂ハ其氏ナリ文王ノ善ク老ヲ養

フヲ聞テ周ノ渭水ニ釣リス時ニ文王夢兆アリ出テ田ス忽チ尚ニ遇フ同車ニ載テ帰ル文王ノ先君太公ヨリ聖人ヲ望ム久シ是ヲ以テ尚ヲ号シテ太公望ト云文王崩シテ武王之ヲ師トシ殷紂ヲ伐テ周ノ天下ヲ創ム乃チ之ヲ齊國ニ封ス

# 伊尹耕莘

伊尹ハ夏桀ノ時有莘ノ野ニ耕ス殷湯人ヲ使シ聘シ

テ之ヲ迎ヘ立テ以テ師ト為ス後桀ヲ伐テ天下ノ民ヲ救フ湯王崩シ外丙立テ二年ニシテ崩シ其弟仲壬立四年ニシテ崩ス湯ノ孫太甲立ツ不明ナリ伊尹之ヲ桐ニ放ツ三年ニシテ太甲過ヲ艾ム伊尹乃チ奉シテ亳ニ歸シ徳ヲ修ム諸侯之ニ歸ス

# 喪邦黃皓

黃皓ハ蜀漢後主ノ寵臣権ヲ專ニシテ自ラ恣ナリ諂

佞至ラサルナク主聰ヲ掩蔽シ姜維ヲ屏逐  
シ卒ニ國ヲ喪ハシムルニ至ル

# 誤國章惇

宋ノ章惇字ハ子厚建州浦  
城ノ人豪雋文ヲ能ス嘗テ

蘇軾ト南山ニ遊フ仙遊潭ニ抵ル下萬仞ニ  
臨ミ木ヲ其上ニ横ヘ惇平歩シテ過キ筆ヲ  
濡シテ壁ニ書ス神彩動セス軾曰ク君他日  
必ス能ク人ヲ殺サント王安石政ヲ秉リ用  
テ三司條例官トナス哲宗ノ時樞密院ニ知  
タリ司馬光左僕射トナリテ惇等罷ラル後

惇右僕射トナル尽ク熙寧元豐中安石ノ行  
ヲ所ノ法ニ復シ元祐中ノ人ノ罪ヲ治スル  
厯日ナシ光以下五十餘人ヲ貶ス徽宗立チ  
太后政ヲ聽テ尽ク貶竄ノ人ヲ召シ光等三  
十三人ノ官ヲ追復ス而シテ惇が國ヲ誤ル  
ヲ責テ右僕射ヲ罷メ尋テ竄セラル

# 比干剖腹

比干ハ殷ノ紂王ノ諸兄ナ  
リ紂ノ無道ヲ歎キ数々諫

ム紂怒テ曰ク聖人ノ心ニ七ツノ竅アリト  
割テ其心ヲ視ル



# 豫讓漆身

豫讓ハ晋國ノ人初メ范吉射ニ事ヘ去テ智伯ニ事フ

智伯之ヲ重寵ス趙襄子、智伯ヲ滅シ其頭ニ漆シテ飲器トナス讓曰ク士ハ己ヲ知ルモノ、為ニ死シ女ハ己ヲ悦フモノ、為ニ容ツクルト以首ヲ挾ミ襄子ノ宮中ニ塗ル襄子則ニ往キ心動ク索テ讓ヲ獲タリ襄子以テ義士ナリトシテ之ヲ縱ツ讓又炭ヲ吞テ啞トナリ身ニ漆ヌリテ癩トナリ襄子ヲ撃ント欲ス志ヲ得スレテ復タ獲ラル讓乃チ

襄子ノ衣ヲ請得テ之ニ三刀シテ讎ヲ報スルノ意ヲ致シ遂ニ劒ニ伏テ死ス

# 劉邦興漢

漢ノ高祖皇帝姓ハ劉名ハ邦泗上ノ亭ノ長ヨリ起リ

秦ヲ滅シ又項羽ニ勝チ漢ノ天下ヲ興ス蕭何ヲ以テ相トナシ張良陳平ヲ謀臣トナシ韓信ヲ大將トナシテ四百餘年ノ鴻業ヲ創ム

# 胡亥上秦

胡亥ハ秦ノ二世皇帝ノ名始皇沙北ニ崩シテ趙高ノ

為メニ立テラル時ニ陳勝ノ徒蜂起シテ中原擾乱ス高等隠シテ告ケズ然ルニ秦ノ兵数々敗ル、ニ及ビ二世ノ怒ラシクテ恐レ遂ニ胡亥ヲ弑シテ子嬰ヲ立ツ嬰立テ高誅セラル茲ニ至テ秦軍敗レテ子嬰高祖ニ降リテ秦遂ニ滅ブ

# 袁安卧雪

後漢ノ袁安字ハ邵公汝南ノ人嚴重ニシテ威アリ州里ニ敬セラル肅宗ノ未司空トナリ司徒ニ遷リ和帝ノ時薨ズ安洛陽ニ客タル時大雪

地ニ積ル洛陽ノ令自ラ出テ案行ス安ノ門ニ至ルニ門閉テ行迹アルナシ人ヲシテ雪ヲ除カシメ戸内ヲ伺フニ安ノ僵臥ヲ見ル問テ曰ク何ヲ以テ出テサル安曰ク大雪人皆餓ユ人ニ宜シカラズト令之ヲ孝廉ニ舉ク

# 仁傑望雲

狄仁傑字ハ懷英唐室再造ノ忠臣ナリ久ク相位ニ居リ梁公ニ封セラレ司空ヲ追贈ス公初メ并州法曹ト為ル片常ニ親ノ河陽ニ在ルヲ慕

一日太行山ニ登リ白雲ノ孤飛スルヲ見  
テ吾親ノ彼白雲ノ下ニ舍スヲ想ヒ悵然ト  
シテ去ル能ハス雲漸クニシテ移ルヲ見而  
テ後去レリト云フ

# 何奇韓信

韓信初メ項羽ニ從ヒ數々  
策ヲ立レ氏用ヒラレズト  
テ漢ニ歸ス漢治粟都尉トナス時々蕭何ト  
語ル何之ヲ奇トス漢王南鄭ニ至ル將士多  
ク道ヨリ止ガ信モ亦止ゲ去ル何自ラ之ヲ  
追フ人ノ曰ク丞相止グト王怒ル何來リ謁

ス王罵テ曰ク汝止クルハ何ヤ何曰ク信ヲ  
追フナリ王曰ク諸將止グル十ヲ以テ數フ  
公追ハズ信ヲ追トハ偽リナラン何曰ク諸  
將ハ得易キノ信ノ如キハ得ベカラズ王  
長ク漢中ニ王タラント欲セバ信ヲ事トス  
ル所ナシ必天下ヲ争ント欲セハ信ニ非ン  
バ與ニ事ヲ計ルモノナシト王是ニ於テ信  
ヲ拜シテ大將ト為シ重ク之ヲ用ユ

# 香化陳元

後漢桓帝ノ時仇香名ハ覽  
年四十二ニシテ蒲亭ノ長ト

ナル民ニ陳元ト云フモノアリ其母元が不  
孝ヲ告ク香親ヲ其家ニ到リ諭スニ人倫ノ  
道ヲ以テス元感悟シテ卒ニ孝子トナル考  
城ノ令王奐香ヲ署シテ主簿トナス

# 陳平奇計

陳平少シテ家貧シ漢ノ高  
祖ニ從ヒ護軍中尉トナル

高祖之ニ黄金四萬斤ヲ予ヘ為ス所ヲ恣ニ  
セシム平以テ反間ヲ楚ノ軍中ニ縱チ天下  
定マルニ至ルマテ凡六タヒ奇計ヲ出ス曲  
逆侯ニ封セラル惠帝ノ時左丞相トナリ呂

后ノ時右丞相トナリ又文帝ニ相タリ平初  
メ里中ノ社ニ肉ヲ宰ス甚々均シ父老之ヲ  
善シトス平曰ク平ヲシテ天下ニ宰タラシ  
ムレバ亦此肉ノ如シト

# 唐介直言

唐介字ハ子方宋ノ仁宗ノ  
監察御史裏行タリ張貴妃

ノ兄堯佐一日ニ宣徽ノ節度景靈群ノ牧ニ  
遷ル介之ヲ論スレ氏聽レス文彦博向キニ  
蜀ニ守タリシ片燈籠錦ヲ以テ貴妃ニ獻シ  
テ執政ヲ得故ニ今堯佐ニ黨スト効奏ス上

怒テ介ヲ蕃州ノ別駕ニ貶ス神宗ノ時参政ト為リ王安石ノ新法ヲ爭論シ勝能ハス疽背ニ發シテ卒ス

# 力稱烏獲

烏獲ハ古ノ勇士力能ク千鈞ノ鼎ヲ舉ケ孟子曰其能

# 勇尚孟賁

孟賁モ古ノ勇士血氣ノ勇アリ力能ク生牛角ヲ拔ク公孫丑稱ス孟子ノ勇孟賁ニ過タル遠フシト

# 鞅更秦法

衛ノ公孫鞅秦ニ入り嬖人景監ニ因テ孝公ニ見ヘ帝

道王道霸道ヲ説キ強國ノ術ニ及ブ公大ニ悦ヒ鞅ノ言ヲ用テ法ヲ変レ令ヲ定ム民什伍ヲナシ相叔司連坐セシム姦ヲ告ゲザルモノハ腰斬シ姦ヲ告ルモノハ敵ヲ斬ルト賞ヲ同フシ姦ヲ匿スモノハ敵ニ降ルト罰ヲ同フン軍功アルモノハ各率ヲ以テ爵ヲ授ケ私闘ヲ止スモノハ各輕重ヲ以テ之ヲ刑ス大小力ヲ戮セテ畊織ヲ本業トシ粟帛ヲ致ス多キモノハ

其身ヲ復ス末利ヲ事トシ怠テ貪ニ及フ者ハ  
 舉ナ以テ収孥トス収孥ハ收テ之ヲ役使スル  
 ナリ執商ニ封セラハ商君ト号ス執ノ法ヲ立  
 ルヨリ秦國治ル然ルモ苛酷自ラ禍ヲ招キ惠  
 文王ノ時車裂ノ刑ニ處セラレ

# 普讀魯論

趙普字ハ則平、宋ノ太祖太  
 宗ニ仕ヘテ相トナル性沈  
 毅果斷天下ヲ以テ己カ任トナス初メ吏道ヲ  
 以テ聞ヘ學術ナシ太祖嘗テ勸メテ書ヲ讀マ  
 シム普遂ニ手ニ卷ヲ執テズ朝廷將ニ大議ア

ラントスル毎ニ戸ヲ闔テ自ラ篋ヲ啟キ一書  
 ヲ取テ之ヲ閱ス卒スルニ及テ家人其篋ヲミ  
 ル即チ論語ナリ嘗テ太宗ニ謂テ曰ク臣論語  
 一部アリ半部ヲ以テ太祖ヲ佐ケ天下ヲ定ム  
 半部ヲ以テ陛下ヲ佐ケテ太平ヲ致スト

## 四字經補註解前篇卷之下畢

正誤

上卷二行 誣ルハ誣ルニ同ウラ 淮ハ淮ニ上ケテ 冠ハ冠ニ上ノ下 度ラハ度ルニオモテ  
 上ノ下 五行 同九 彙ハ釐ニ上ノ下 子雖ハ子推ニ同五 衰  
 上ノ下 六行 暹ハ暹ニ同九 彙ハ釐ニ上ノ下 子雖ハ子推ニ同五 衰  
 ハ衰ニ同九 頡ハ頡ニ上ノ下 トツハトツニ下卷ハ 子雖ハ子推ニ同五 衰  
 下ノ下 十六行 棄ルハ棄ルニ下ノ下 洋ハ洋ニ下ノ下 雋ハ雋ニ下ノ下 鼎ハ  
 下ノ下 十六行 棄ルハ棄ルニ下ノ下 洋ハ洋ニ下ノ下 雋ハ雋ニ下ノ下 鼎ハ  
 カ丈ニ同 生牛角ハ生牛角ニ同

上下卷ノ間 對句ヲ 下卷孟母漸機マテ上卷ニ  
 分テリ 入ルヘキヲ 誤ル

明治十二年四月十七日版權免許  
 全年 五月十二日出版

編輯人

芝區愛宕町三丁目五番地

岩本政宜

出版人

右同人方同居

納 弁之助

發賣

京橋區南傳馬町一丁目上菴地

福井久兵衛

後篇追刻

定價三十錢

